

科目名	運動障害性構音障害Ⅱ						授業の種類	演習	必修・選択	必修
授業回数	15	回	時間数	30	時間	2	単位	配当学年時期	2年	後期
【授業の目的・ねらい】 構音障害の講義・演習を通じて、正常の呼吸・発声・構音運動の理解と神経・筋病変に起因する構音障害の特徴、その発現メカニズムについて学ぶ。										
【実務者経験】 赤穂中央病院、姫路聖マリア病院等にて、言語聴覚士として機能訓練事業・小児発達訓練事業に従事。										
【授業全体の内容の概要】 各構音障害について総合的に理解し、訓練方法および発話補助手段についても理解する										
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 構音障害の概要を把握、理解し、臨床場面での適切な検査・評価等できるようになる 国家試験に即した問題を解くことができる										
回数	講義内容								準備物(教材)	
1	ディサースリアの定義と分類、病変、運動障害のタイプを理解できる。									
2	運動の要素、運動麻痺、運動失調、不随運動について理解できる。									
3	反射、原因疾患、脳血管障害、球麻痺、感覚障害について理解できる。									
4	関連症候について理解できる。									
5	構音の評価（1）タイプ別の呼吸・発声・構音特徴を理解できる。								CDデッキ	
6	構音の評価（2）構音検査、発声発語器官検査について理解できる。								舌圧子	
7	構音の評価（3）プロソディー検査、随意運動検査について理解できる。									
8	構音の評価（4）機能検査、反射検査、その他の検査について理解できる。									
9	構音検査演習（検査の手順を説明し行なうことができる）								AMSD	
10	リハビリテーションと医学的治療について理解できる。									
11	訓練：呼吸、発声、構音各側面に対するアプローチを理解できる。									
12	評価・問題点の抽出・訓練プログラム立案ができる。									
13	訓練プログラム立案（2）検証及び修正ができる。									
14	コミュニケーション補償、AAC、装具・補助機器などについて理解できる。									
15	まとめ 復習を通して知識の整理ができる。									
定期筆記試験										
【使用教科書・教材・参考書】 ディサースリア臨床テキスト										
【準備学習・時間外学習】 適宜予習、復習を行う										
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 試験は定期試験のみ実施とし、 60点以上の場合に科目を認定する。										